

第29回  
飛水クラブぎふ  
作品コンクール

作品集  

---

2021



# ● 目 次 ●

美術作品	● 日本画 ……………	2
	● 洋 画 ……………	8
	● 工芸・彫刻 ……………	11
	● 書 ……………	17
	● 写 真 ……………	20
文芸作品	● 短 歌 ……………	26
	● 俳 句 ……………	29
	● 川 柳 ……………	33

## 《後 援》

岐 阜 県  
岐 阜 県 議 会  
岐阜県教育委員会



日本画

洋画

工芸・彫刻

書

写真

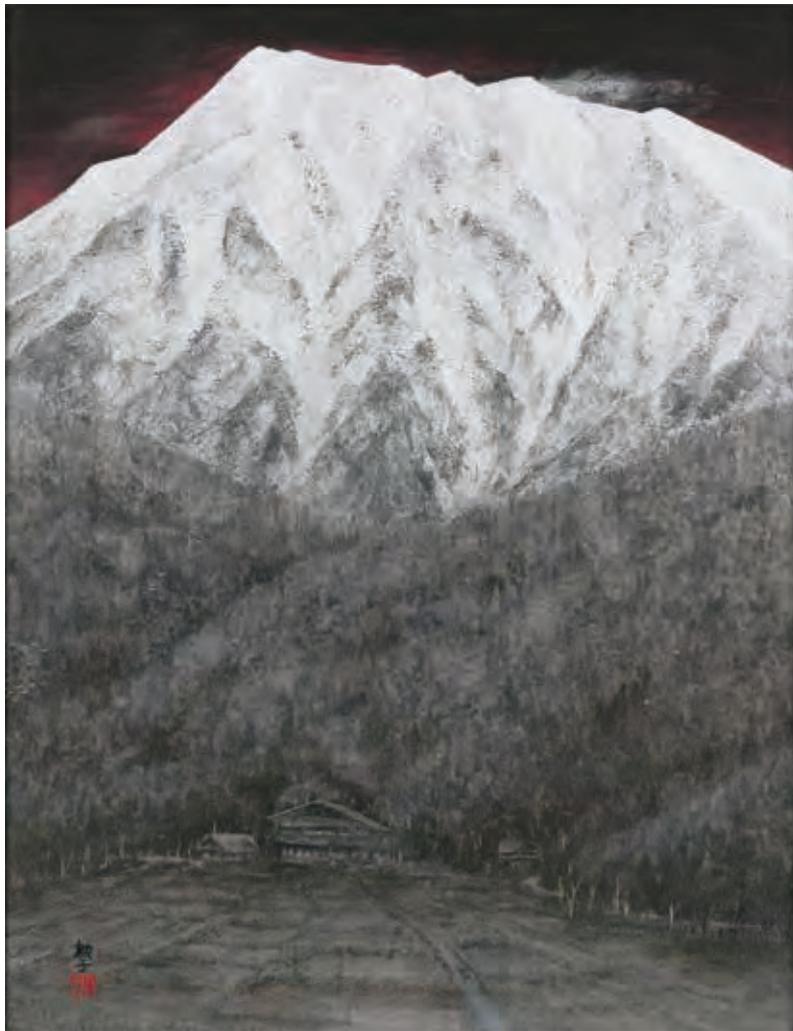
文芸

美術作品

# 日本画

※審査員 櫻井 正信 氏

優秀第一席



寒冷の譜

岐阜市

川地 勲子

全体の色調が統一されていて冬の厳しさが感じられます。画面の山と麓の景色が半々なのが少し気になりますが、全体として調和が取れていて良い作品だと思います。

## 優秀第二席



## 上賀茂神社

羽島市 中川 ゆう

冬の感じが良く出ており、その中に神社という赤い建物が絵の中心となっているので画面の中で際立ってとてもいいと思います。

## 優秀第三席



## 奥飛騨

各務原市 多和田 弘子

冬景色だが枯れ木に雪がなく残雪のようで、これから春に向かって木々が芽吹いていくように見えます。水墨の紙の白さを雪の白さとしてうまく残しており清潔感があります。

優秀第四席

晩秋



岐阜市 伊佐治 京子

優秀第五席



牡丹

大垣市 棚橋 正子



法隆寺

岐阜市 吉安 和正



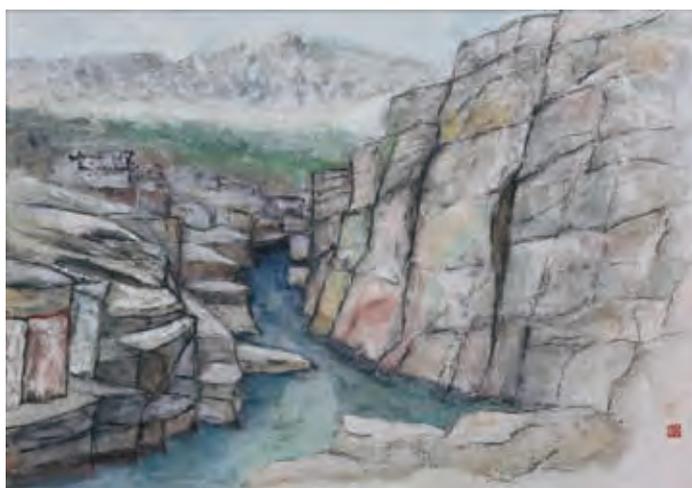
室生寺

岐阜市 岩田 貞子



普賢菩薩

大垣市 五島 すみ



木曾の名峡

岐阜市 井上 勝



### 中国李坑村での川沿い

大垣市 田井 紀志雄



### 秋空高く紅葉進む

海津市 多和田 一夫



### 寂

笠松町 易田 陽子



### 雪の山道

土岐市 小池 三和子



### 迫力と威厳

養老町 小寺 礼二郎



### 里芋

揖斐川町 栗野 道子



### 雨の高野山

揖斐川町 小森 徹郎

## 美術作品

# 洋画

※審査員 青木 年広 氏

優秀第一席



新樹光る道

大垣市

佐藤 淳子

新緑の山道であろうか。日差しの爽やかな、空気の美味しさまで感じる。みずみずしさがとてもよく描かれていて好感が持てる作品です。

## 優秀第二席



### 奥入瀬溪谷の秋

海津市

清住 弘志

黄色、オレンジ色、茶色が美しく使われています。川の水も自然に見えるよう細やかに描かれており好感が持てます。

洋  
画

## 優秀第三席



### もの思うシャバーニ

土岐市

原田 さつき

人気のあるゴリラの迫力ある作品です。大作にチャレンジしていて表情に愛情を感じます。



咲穂と友人

大垣市 西田 久子



木もれ日

大垣市 北村 和代



晩秋の明神岳

大垣市 杉原 朱実



上高地帝国ホテル

笠松町 石原 美代子



トンボ池の夏

笠松町 稲葉 博之

● 美術作品 ●

## 工芸・彫刻

※審査員 辻 喜久恵氏（工芸）  
入山 千穂子氏（工芸）  
森島 昭道氏（彫刻）

優秀第一席



能面「獅子口」と飾り棚

大垣市

桐山 淳

流木と思いきや後景の色にすっかり取り込まれ、次から次へと現れる動画のごとき激しい作者の思いが届く作品となりましたね。悪をも寄せ付けない程の力作なり。

## 優秀第二席



### のれん

揖斐川町 花沢 和子

やさしい色合いで黒のステンドグラス風の縁取りのカーブ線がシワもなくきれいですね。針目も揃って丁寧な仕上がりで感心しました。

## 優秀第三席



### 雅

神戸町 馬淵 たず子

最近見られなくなった七宝焼を懐かしく見せていただきました。東雲の柄が構図良く画面におさめられており、おっとりとして気持ちが癒されます。

優秀第四席



河童の家族

大垣市 矢代 由美子

優秀第五席



押し絵  
『目に映えるまいこさん』

羽島市 番 幸子

工芸・彫刻

奨励賞



押し絵『ヒマワリ』

大垣市 横山 富子

奨励賞



ながあ〜く楽しく！（彫刻）

各務原市 野倉 光春



### 細の目

岐阜市 篠田 トモ子



### 河童の戦い

岐阜市 松原 和子



### 藍と冬青の生葉染のストール

岐阜市 後藤 康子



### 祭屋台

岐阜市 飯沼 杉夫



### 千手観音

大垣市 杉山 正明



### 押し絵『クレマチス』

大垣市 佐久間 靖子



もめんの花  
ミニフラワーリース

大垣市 大橋 寿栄



ブルーベリー

大垣市 大橋 まり子



ちりめんで作る干支の飾りもの

羽島市 高畑 サチ子



とき絵『ロープの手芸』

羽島市 加藤 日出子



能面『般若』

海津市  
渡邊 勝正



えびす大黒

笠松町  
廣江 勢津子



セーターで手さげかばん

笠松町 山田 ひさ子



桜舞心

笠松町 箕浦 久子



刺し子でマスクケース

笠松町 野々垣 美知子



阿弥陀ヶ滝

笠松町 杉山 弘昭



つるし柿

揖斐川町  
後藤 みつる

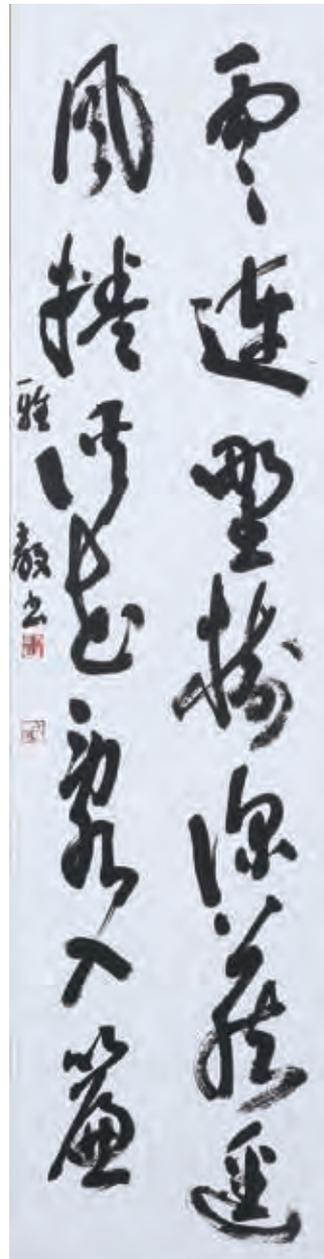
# 美術作品

## 書

※審査員 早川 修氏

優秀第一席

漢詩 七言二句

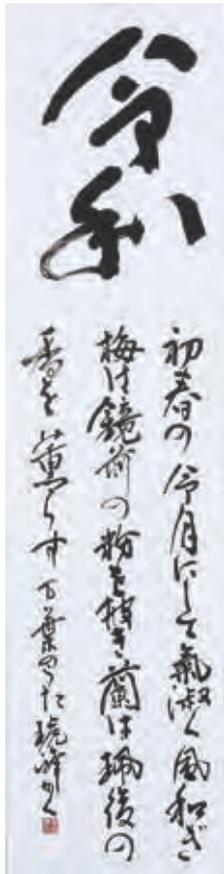


各務原市 大里 雅教

一行の中に文字（字形）の長短・線の太い細い・運筆のスピードの変化がよく表現されており、練度の高い草書作品となっています。

書

優秀第二席

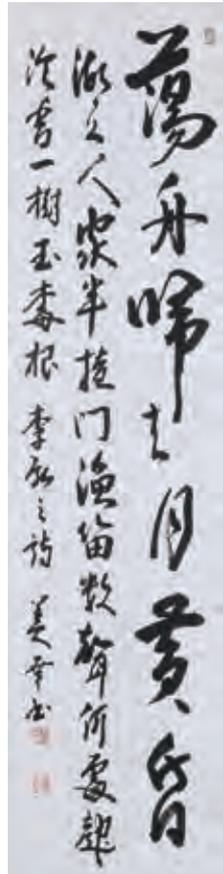


万葉集の一句

大垣市 齋藤 常正

万葉集「令和」の一節を漢字仮名交じりで大変読み易く表現されています。下部の三行書き部分の文字の大小がうまく表現できています。

優秀第三席

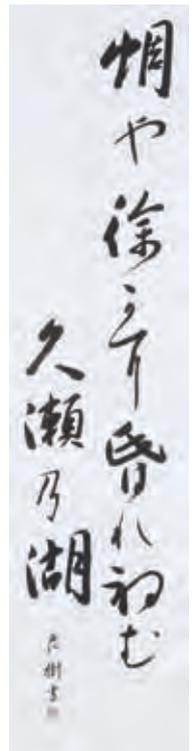


漢詩「蕩舟歸去月黃昏」

中津川市 田口 美幸

題名となっている一行目の太く墨の入った線に重厚感があり、迫力を出しています。他の二行にももう少し文字（字形）の長短・字幅の変化を出されてもよかったですのではと感じます。

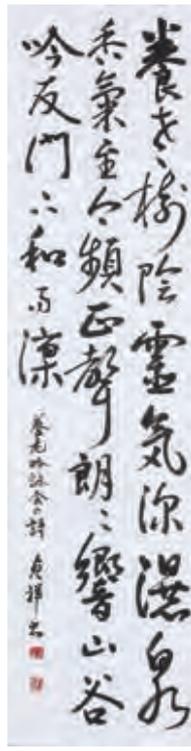
優秀第四席



故大野伴睦氏の詩

揖斐川町 高橋 良樹

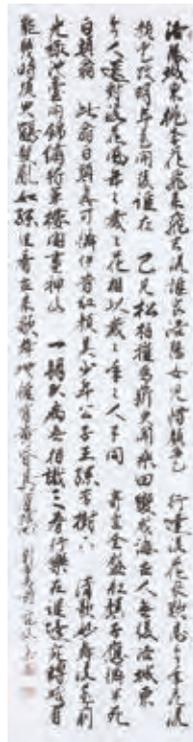
優秀第五席



養老樹陰靈氣涼

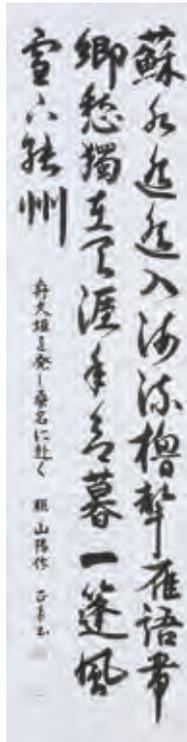
養老町 大岡 貞子

「洛陽城東桃李花」 劉希夷詩



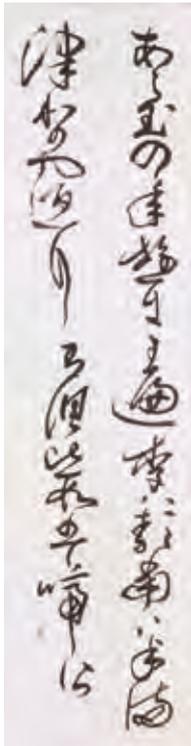
中津川市 松田 龍仙

舟大垣を発し桑名に赴く



大垣市 早野 正美

万葉集



大垣市 長澤 春子

日照香炉



養老町 萩野 清美

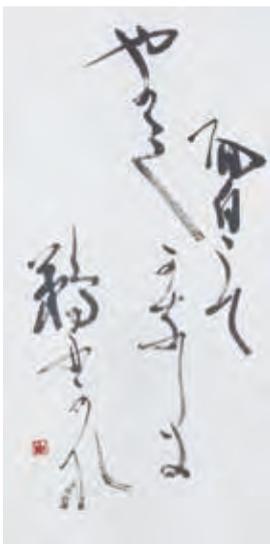
漢詩「濁り江楼に上れば思い渺然」



中津川市 瀬瀬 つる子

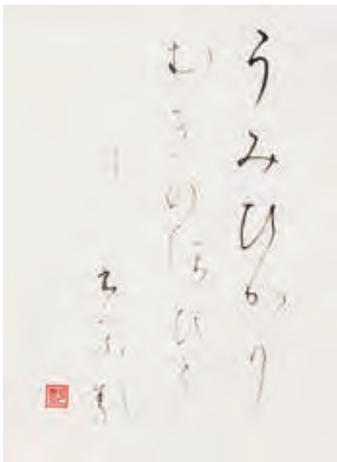
面白うて

やがてかなしき鵜舟かな



岐阜市 吉村 由美子

うみひかり



土岐市 塚本 つや

## ● 美術作品 ●

# 写真

※審査員 安藤 茂喜 氏

優秀第一席



写真

春近し

神戸町 志知 敏明

日本画を思わせる落ち着いた作品です。枯れたハスの茎がリズムカルに入っていて、上手い構図で撮影されています。丸く溶けた氷が春近しと告げていてタイトルにぴったりの作品になっています。

## 優秀第二席

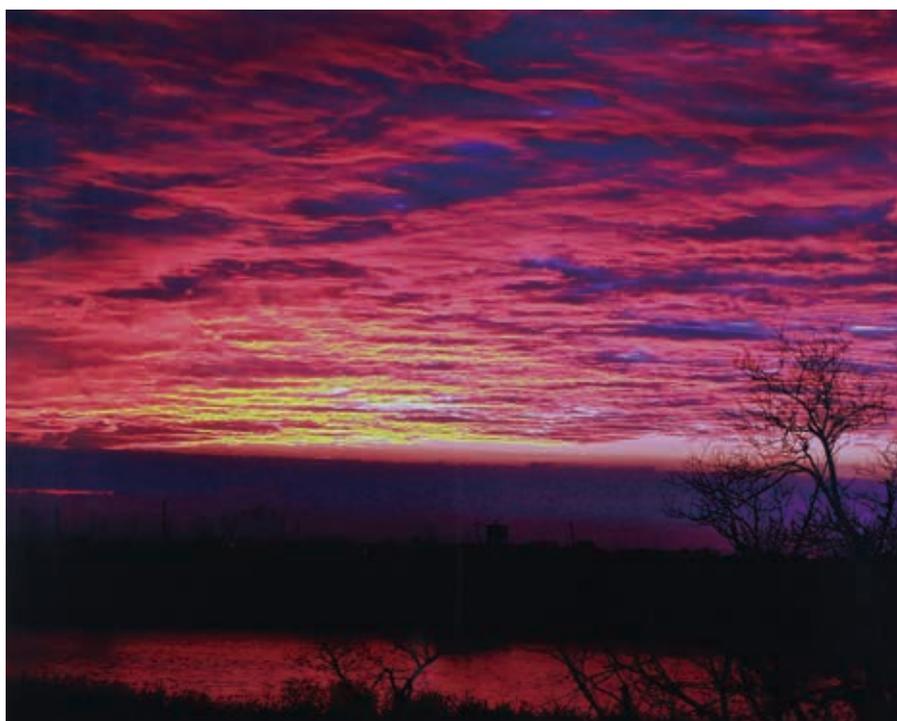


### 雪下ろし

中津川市  
梅田 壮一

雪国の日常の暮らしがよく出ている作品です。屋根に積もった雪の多さと小さく写った人物との対比がよかったですと思います。

## 優秀第三席



### 朝焼け

羽島市  
奥田 輝子

見事な朝焼けの光景です。茜色に染まった雲の波がドラマチックに写されていて美しい作品です。

優秀第四席



三羽カラス

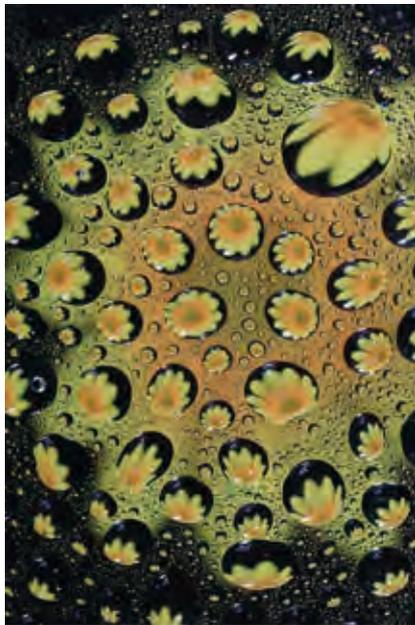
羽島市 富田 昇

優秀第五席



春の詩

大垣市 田中 貞雄



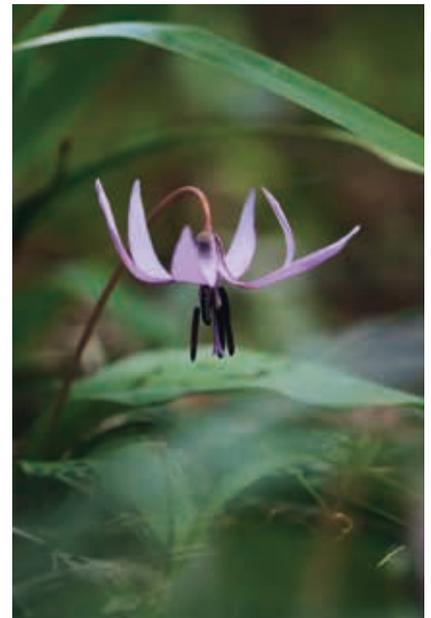
宇宙の水滴

岐阜市 可児 芳春



五月晴れ & ウォーキング

大垣市 加納 益雄



風の中

大垣市 細野 勝利



### 水面の妖精

大垣市  
和田 育穂



### 御降臨

中津川市 小川 勇



### クラシックカー追憶

中津川市 熊澤 一郎



### 彩雲

中津川市  
田口 敏朗



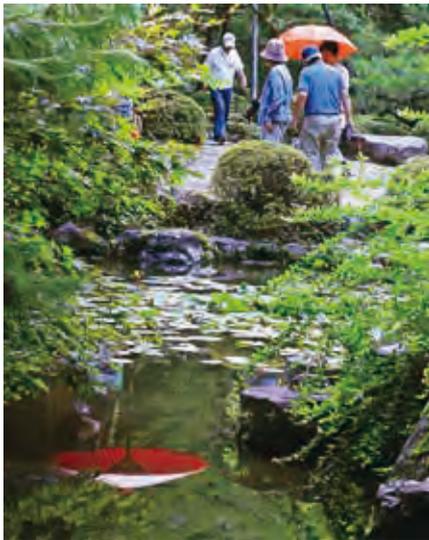
### 街中のテラス

中津川市 嶋倉 鉦藏



### 雄叫

中津川市 内木 隼三



### 新緑

羽島市 野口 敏子



### 朝景

羽島市 森 弘子



### 冬の花火

土岐市 高橋 芳博



### 恋人の聖地

海津市 山口 與志治



### 雪のかぶった一本杉

揖斐川町 高橋 修理



### 錦秋

笠松町 岡本 省三

● 文艺作品 ●

● 短歌

● 俳句

● 川柳



# 短歌

※審査員 後藤 左右吉 氏

優秀第一席

おはようと声かけゆきし中学生

草刈る背中を一瞬の風

美濃加茂市 桜井 五月

早朝から草刈りに励む作者、その背中に一声かけて登校する中学生。あたたかい農山村の情景が見事に描き出され「一瞬の風」の名詞止めも効いている。

## 優秀第二席

喋りつつ紅ひく友の手際よさ  
勤めし頃の暮らし思わる

中津川市 嶋倉 みどり

友の瞬時の動作から、勤めていたころの友の姿へ思いを馳せているのである。よく間に合う、手八丁口八丁の勤めぶりだったのだ。焦点化がうまい作品。

## 優秀第三席

すんなりとコロナワクチン接種終え  
はりつめしもの剥がれてゆきぬ

大垣市 棚橋 道子

コロナ禍での日本国民の気持ちを代弁してくれたような作品。「はりつめ」ていたものが「剥がれ」ていった、という表現が率直でうまい。

優 秀 体内の酸素入れ替える如く  
第四席 今年最初のウォーク始む

中津川市 岩 木 咲 男

優 秀 亡き祖母の手織りの着物まとう朝  
第五席 彼岸の風はやわらかく吹く

中津川市 小 島 裕 子

ゆるい坂十往復が日課らし

老夫は妻を振り返りつつ

岐阜市 小 野 茂 登 子

手を放し自転車乗るをヨシとした

青年時代が懐かしき今

大垣市 安 田 良 吉

いままさに陽沈まんとし手を合わす

山の頂き金色に照る

大垣市 佐 竹 三 千 雄

夕日落つ八十の旅路を踏みしめる

峠の宿の灯りちらほら

大垣市 安 田 一

沙汰絶えて浮かぬ春日大傘して

訪れ来たる花吹雪かな

大垣市 落 合 守 人

コスモスの花茎揺るる丘の上は

広き青空千変の雲

中津川市 纈 纈 登 美 子

十四年支えてくれたる我が愛車

今日を限りと初夏の風受く

中津川市 今 井 和 子

跳ねのけて潜り足取り大男

ひっくり返す小兵炎鵬

中津川市 岩 木 桂 三

そう言っただけ出来りや上の上

夫の励ましを背に受けて立つ

中津川市 片 田 百 合 子

「私誰？」問いに戸惑う百五歳

母は咄嗟に「お母さんやわ」

中津川市 熊 崎 み つ 糸

吾の前を行きつつ教えてくれるやも

先に見えくる景色を夫は

中津川市 田 口 享 子

やみくもに働き疲れた我が顔は

老女そのまま夜の鏡に

中津川市 田 口 美 幸

外来の野草増えたる道端に

振花咲くを和みて見つむ

中津川市 中 島 さ ち 子

口開けて介護士の匙待つ君に

食みて欲しきは今年の新米

羽島市 中 川 夕 甫

炎天下ゲートボールに汗流す

老人パワーに鋭気を貰ふ

羽島市 水 谷 廣 子

手を上げて横断歩道を渡りおえ

車におじぎするマスクの児らは

各務原市 北 澤 重 行

亡き母の大島紬リサイクル

感謝の気持でコートに仕立つ

養老町 清 水 康 子

新競技女性ふたりは十代と

東京の空日の丸二本

養老町 古 川 奈 津

牧田川水の干上り鷺集う

魚を追うて浅瀬は楽園

養老町 村 上 や す 子

特定健診洗い出したる弱点に

頭を下げて明日をみる我

養老町 竹 田 義 秋

生きるとは人に支えられ

空を見ることだと思いつけています

養老町 大 橋 正 典

初ひ孫抱かせてもらっ女の子

手には嬉しい百握り見る

神戸町 加 藤 つ や 子



# 俳句

※審査員 田中 青志 氏

優秀第一席

稲の花星ちりばめて村眠る

大垣市 今津 絹代

稲の花咲くは豊作へのプロローグ。雄しべから雌しべが受ける受粉の寿命はわずか二分から三分という神秘的な短さ。星散りばめた村眠るは豊作を待つ村の平和な風景。今年も豊作でありますようにと星に願いを託すがごとき村の佇まいが見えてくるよろしさがある。

## 優秀第二席

天よりも水面明るし夏つばめ

大垣市 新町 恵子

燕返しという剣術を編み出した身の反転の鋭い燕。春、南の国からやってきて人里で子育てをする。外敵から身を守るための知恵とはいいながらも賢い動物である。天よりも水面明るしは初夏の水の面の清々しさを表わして爽快、水面を滑るように飛んで身を翻す姿が見えるようである。

## 優秀第三席

籾蒔を終へ大空へ伸ばす腰

大垣市 高瀬 鈴子

籾蒔きは種籾を苗代に蒔くのは八十八夜のころの大切な仕事、大気の静かな早朝がよい。現在ではすっかり機械化されて、箱の苗代に静かなモーター音とともに自動的に播種される。この句のような光景は今後、書く人も理解する人もなくなるのではなからうか。日本の農業も変わったものである。

優秀  
第四席

おだやかに過ごす余生や新茶汲む

岐阜市 坂本 好子

夏の夜や紡ぎ紡いで聖火燃ゆ

岐阜市 川田 英夫

ご城下の名水百選水まんじゅう

大垣市 伊東 英司

山里の夕陽に映える稲穂かな

大垣市 渡部 宗夫

優秀  
第五席

にぎやかに別れてよりの花寂

大垣市 村田 通夫

灯明に心安らぐ今朝の夏

岐阜市 藤沢 勝

風薫るカタコト織らる鯉編

大垣市 大西 誠一

夏暖簾旅の終わりにや湊跡

大垣市 富田 洋子

## 佳作

はるかなる島へ黙禱青岬

岐阜市 森 島 紘子

立春や御堂の風の和みをり

岐阜市 井川 誠

新茶注ぐ共に住みたり美濃訛り

大垣市 早崎 美弥子

長良川鵜舟かがり火待つ西日

大垣市 石垣 真理子

## 佳作

紅をひく卒寿の母や初鏡

岐阜市 辻 雅宏

春風やマーチ流るる運動会

岐阜市 寺田 雅子

われの歩に夫待ちくれし初詣

大垣市 日比野 友子

夕暮れの花の向ふにひとりゐる

大垣市 日比 昌子

## 佳作

掛軸の「空」の一字や北開く

岐阜市 奥田 雅章

秋の蝉生命の限りもつと鳴け

岐阜市 船渡 恵

ぬつと猫さつと散らばる目高かな

大垣市 在間 琇子

夕立や牧牛の群れ動きけり

大垣市 上田 正衛

老いて今阿ず生くる沙羅の花

岐阜市 浅野 和代

茗荷の芽みつけて妣の笑み偲ぶ

岐阜市 松原 厚子

惜別も出会いもあるね春の風

大垣市 鶴巻 タケノ

誰も来ず出掛けもしないお正月

大垣市 小松 秀雄

萩咲くや母の黄楊櫛飴色に

岐阜市 石樽 みさ子

七草粥噉りて命またつなく

岐阜市 岩田 貞子

新緑や新たにスタート新市政

大垣市 多和田 一徳

海原へ続く坂道合歓の花

大垣市 岩田 よし子

秋晴の檉切る音のかたきかな

岐阜市 瀬瀬 利子

コロナ禍か探せど見れず鯉幟

大垣市 大橋 庄一郎

ともしびの遠し冬ざる過疎の村

大垣市 浅野 正

梅雨寒や今日閉店のレストラン

大垣市 奥田 和子

花びらが染める足元けさの雨

大垣市 矢代 由美子

両手添えホットミルクや冬うらら

大垣市 西村 勝子

背戸の木の残り葉揺れて秋深し

中津川市 内木 鏝三

秋燈<sup>しやうとう</sup>や書架に一冊抜きし陰

中津川市 安江 定人

マスクして登校の子ら夏帽子

美濃加茂市 高井 多津子

こしあぶらごこみあしらふそば御膳

各務原市 甲谷 峰子

一族の墓迄続く曼殊沙華

各務原市 岩田 数美

薄墨や千古の色香香姿

各務原市 岩田 香代子

移ろい見ゆ生かされて尚秋深し

各務原市 神野 智恵子

田植え終え農夫二人の立ち話

各務原市 浅野 昭

黒南風<sup>くろはえ</sup>や辻地蔵にも鬼瓦

各務原市 多和田 瑠璃

七夕の短冊揺れる児童館

可児市 秋田 治代

紫陽花が揺れ七色の風となり

可児市 亀垣 貞雄

父母の遺影を写す金魚鉢

可児市 水谷 広海

懐かしき金魚売り人今はなく

可児市 山田 勇

ガラス越し金魚の朱色鮮やかに

可児市 市原 喜代子

向日葵やまた一人増えたち話

可児市 北村 一子

皺を見て「ばあばこれなに」梅雨晴間

海津市 伊藤 見慧

室外機止まり下弦の月涼し

海津市 光野 美佐子

遺跡掘る無言に重き玉の汗

養老町 安福 隆司

田植機に乗り独りのひと日過ぐ

養老町 大橋 正典

朝顔が葉を萎<sup>しお</sup>れさせ水をこう

神戸町 高田 和郎

炎天の土跳ねあぐや恵み雨

神戸町 早津 郁男



# 川柳

※審査員 武山 博氏

優秀第一席

生きている証の髭を今日も剃り

大垣市 堀 吉則

私も毎朝髭を剃ります。昨夜お風呂で剃ったにもかかわらず、目覚めるともうザラザラして気持ちが悪いですからまた剃ります。1日に0.3ミリも伸びるそうです。でも剃った後はサッパリして、今日も前向き生きる決心をします。

その決意が現れた句です。ついでに、くちひげ、あごひげ、ほおひげは漢字が全部違います。順に「髭」「鬚」「髻」。

## 優秀第二席

### 早起きを野鳥と競いスクワット

可児市 渡邊 道子

不思議です。目覚まし時計をセットしてはいますが、大抵それよりも早く目覚めます。それもほんの数分です。私は、夏も冬も午前四時半に起床します。

すぐ歩きに出ますが、いろいろな鳥の声が聴こえます。飼っている人が居ないのか鶏の声がありません。昔はあの声だったのに、と思いつながら3キロほど歩きます。時々腰を伸ばしながら！

## 優秀第三席

### 美しく老後を生きる設計図

岐阜市 可知 百合子

今年の8月末で満八十歳となり、「老後の設計図」は手遅れだなと思いましたが川柳のエッセイ集を上梓しました。はじめは生前葬をと思いましたが、家内から「呼ばれて迷惑！」と言われて押しかけることにしたのです。650冊印刷し全部お届けしました。沢山の方から感想のお手紙をいただき大変でしたが、傘寿という字は「人が大勢いる形」でしたね、そういえば！

優秀  
第四席

昭和史を語る仲間が又一人

美濃加茂市 栗木忠夫

優秀  
第五席

最初からディスタンスあるわが夫婦

各務原市 古川豊

捨印が野望を秘めて時を待つ

岐阜市 弓桁英二

濃淡をつけぬ人生歩んでる

大垣市 康比呂

かわいいなゴキブリホイホイのねずみの目

大垣市 伊黒敬雄

テレワーク大きなごみと愚痴る妻

大垣市 奥田和子

結論を急ぐ話は棚に上げ

中津川市 今井英雄

コロナ禍の間を縫って生きている

中津川市 橘田拙夫

変わる世を見たい住みたい生きる欲

中津川市 和田富郎

フレイルの終点駅がぼんやりと

各務原市 北澤重行

百までと句友卒寿の心意気

各務原市 岩田靖

花丸を付けて待ちをり春立つ日

各務原市 成瀬富貴子

河口より生まれし水面めざす小生

可児市 浅野正昭

登りきり眼下の緑雲海なり

可児市 高野昭子

ホチ得意ごはんのはしやくクセ

可児市 こそみ 呂衣

大関は優勝杯より酒が好き

可児市 木田圭吾

はやしなかOBのこえと蝉時雨

可児市 紀田秀治

週刊誌見出し一行命取り

神戸町 村瀬昇一

孫二十歳トンネル抜けて来た晴れ着

掛斐川町 今井極子





